荒ざ砂子
へ13
3182

へ13
3182
門 へ 13
號 3182
巻

宮内省圖書寮

序

前ゝ法師ゝとゝ云あつて武蔵の
法師ゝ秋社仏図乃古歌所説
書所ゝこゝやゝ多都るゝゝ仲なし
それ等実録是をゝ酔ゝ綴て
出ちゝゝゝゝぬるゝを廣徳寺ゝふゝ
もんぶゝ中ゝお志ゝうゝもかゝるの面へゝ
たゝゝでさゝれゝお方ゝ汲せんとそさ

昭和九年十月一日 購求

大この山形くゝ出つ新米乃つる形さ
こなゝふの束熟実を吉てゆ行るとと
酔ゝ乃ゝ酒の石隠山鄙ゝ照てう
おふこなゝふ物古をとゝ川す出酔乃
山ゝ乃ちとよ来ゝ出ゝ孫砂る
とゝ題せ新とゝの乃
丁乃ゝ月の
仲秋

撰者
多羅福
孫尤ゝ

月孫

正月の里
稲荷の山
雛村ゞ崎
松葉ゞ浦
かゞゝ塚
祭沢末

真菰ゞ崎
焼篠村
月見ゞ崎
菊見村
恵比須ゞ浦
角力川

撫麦ゞ山嶽
師走川
橋村
地獄谷
羽織ヶ山嶽
毛古路橋

鳥乃町　おちのゞ雨　ちやゝ村

奥山村　狂哥山　奈義山

酒小路市　盤鐘　[illegible]

會関　誹諧村　萩入村

徳平村　兎房橋　げ町の里

正月の里

○此里ちゞ小風流乃里にして別荘おゝゝ能
所ありその名と称ゝしとい
○宝引村　庄屋佐ゝ右衛門　仍りの年ちやぢ
なれどたんもちふてつよぷこゝとい
○屋古より日本へ渡る七草に帝古跡大ゞ
しせつひなるゝどこそたゝひる所あり
○嗜摘村　勝栗大明神　安産
社仏ゝ　ここ祭ゝてだいく仏之神を
擬枠の左支扁額のたゝひと仏ゝ

○日ゐさの里宍戸村堰海ありし所あり
でんざ小田小俗でんちなど此所にて
ありまり猪頭を拳ひらる所あり
○里の子門松函根より猫を取りし所あり
由来小ゐさく此里ふてみどりこを集努
付る小今小ぞん孫ゐさくよりゐ西ゐん也

稲荷山

○此山西月ゐ子供ゞ松茸名物
○俗城横笛売家口出生の所
○山の東小神示嶺五名物張ふて外孫ざんぬ

ゐびさく
○いさづくもの大根押麦でこれゐ名の流を蒔さる所
○ゐづきゐ名ちゐんざりよ山乃ぞ
○大だいこ名物ゐり赤ゐ蛇ゐ名ゐさふゐびゐ風吹ざる

鵜村ゞ家

○牧野ゞ白酒乃名ありり
○娘ゞゐづきゐ名ちゐて名ゐ物
○對の公郷ぜんどの古名いてゐふゐで橋の木
ゞく色ゐりし所といふ
○舟月亭古名ありゐる人間をゐどろゐん

○軒端多くの太張をとりの免員合せたり而
村の東ふたり
○京清図書とあり合るをとりるよ源家の
版をとる所さがりをれぐもとふせんを咲ぶ人ぶと
いひとあり此所宇治くま清のせんざいなり而あり
○七里ヶ蛤又西る月ふも園ふも砂多一

松魚ヶ浦

○初鰹の高人帆うけて志賀風京より
○美味ぶいまー免を刺ひず多くのりるを出て
みえよ嶮ふりふぐらんの古歌

みえだうりそくて建て第代よ
ふくて栄ふんうなうらの海
○此毒魚よ見ふくま新ふーかり渕よ夜新を
志ぶ免を兼をのぐるよ おそるさ渕也
浮小回其毒魚いふ疑よりを辞光了
後悔をとふ
○ふ養の市関所見西新
○美見の松ふり廻搭忠孫氏所よのぐり雲素を
考へる而也
○古漁村さーやを夜志ヶ旧跡あり

[塚]

○猿ヶ番場乃名物ハ西ホもなり

○かき大根新穀の交なりる居の外ハ制札ある

其文ニ

草履ヲ脱下馬突

○鄙句村ハ同出網ハ名物なり既の方ホ

七ツ屋なる

○役所石垣なりし西なり此邊ハ黄なり屋

ホ七ツ屋

○八月雨村ハちいさなる居り乃ち居宅なり

とゝ也居宅でハなるしてふ者ハ此所

雜人筆を張出す

[祭沢木]

○一神合の宮ハ花器なる宮也

○東の方ホヒドイ山なり上面仙人の古跡樹下ホ

ヤア鑼事を岩て交なり

祈るすんぴんをえを事れぬ水丘月の

さるひいの された嘘巻年の汚れ出

○西の方ホ乃水寺乃ある見物窓うゝのり出の

松なり

○宿もの色ふ徳望を林なり松枝ふりでかれら
きる木多く
○夜ふへ御廏へ乗出るその数よりくるくと
いふおそろしさあるとり
○梯村庄屋猪田喜左衛門殿て奥ふてうけとり
まれいなりしごこいといふ
○奥州二本松のつきこ二本梯る庶だやー何
かしぐ古記
宝物
此所より五なり泉のトより黒澤大明神安亜

春慶丸盆　長牧
長鞭　長竹
神ゐー羽織　長竹
此神ゐーいいぐさの橋を鎧衣英として梶原
より下されゐ羽織りの同切まて古鎧乃
ぬぐちやもーきぶちでもうさと記ーさう

真菰孤ぐ遠

○此所ふ充所なり名を草市とふ乃ひ紙
ゆ大こんうぬがれはみそをたびを傳線も
ゆくおりろく上方濃をろふ

其文句下

たま椿椿流ふしの

○芦辺荒つ波こるをいまゝ見る碑かり

奇よ

ふりものもうるくめもろくけの

ふぎけてさくさえのちくり合

○南の方ふかうりの白なす紙の系かり実盛の靴

石とりの毛よりを地よ落るとふ

○源こ伝よりできて青い蒜を出りる古とふ

由来不明なる勅よりて弓初る祝儀ふ

かざし一矢まゐせ玉ふ祝ひ者で楊弓を

射おとしる功よりて暴をとゆまれさを

さるとふ

○

[illegible]

○日本一の滝あり拝ふなる神をつる称ぬ客

を筆の命毛よ法ぎ尚んと砂の海より光を

さるかちより光よこそんの姿筆かんざし乃

○

後光尚末のうり実ぬ花蘂の里也

○風俗いきの松原をるて通人の交りふ徒

ふい来社のごも張ひてたいこも出る

○此村の東より原花紙花などなりて諸免より

原花い山吹より似る花なり紙花とかく

実のなるなし花なり

○西の方よやぢの峯なりさるのそくま中性姫の

古墳あり云山あれば稲どかくよまるる事

○村もづ色よみ塚なり苔むして球磨あり

其碑の前より

来ぬ客をまち乳乃山の名おきて

なるやとよりよりも加毛清

月見ぐ濱

○たんごの千人日より下ともふ張ひておりろき里あり

びんしゃ蕾よのそき花の袖をひるがへしたんなつと

いふ智る義よていそぐ

○これぞりぐ清板人の紅葉ふるく京久諸めよ

なさず

○名物蛤びんの美男中の町よ多るぼんでぶ〜乃

男ぶいしゃ来る紙くれば おやぢありさてそ

いれきたいこれといよ

○分より村の西つら石の右の方ふたんをこなり

和このよ行くべかりしものや
紋所

蒔絵五質の借

○一奇人首をかくむけ孫をとうみを
ゐよ

此庵りくさやろうみ寺にて
秋風吟て名乃降るとに

書黒の月見

○此村をびきよ打ふしぬ月そのうなり猿人の
くー行ようきそ丈一丈をうりのおびとに穂を拾て拾く

菊見村

○村の東よ菊畑堂行り古に伽藍あり周のぐ王の
に建立ありしとふ

○きせ修村大海寺古に也むし白きくといく表
見石の髪りをなしーきるうなりて生なりの
渕よのぞみ月を投んとせーぶ大ひなる岩なり
けるよおそれ入水を思ひとまりをる所なり
手欲よ
と行とのよ所を投んとおりへも
むふの石でなるまなびなし

伴よ田はこそこでうゝさとうぎとうくを
されどこそたる年矢乃岡性なりし
時乃菓内のやろふがるまで咲るるり
○村の南よ居をなりませ垣まがしくむさび
りぐけ一仕彩戸の風流浮世一さんまいよ屋
夜かんきんのでうん菓を勧る
○村の内よ菓たぐこの名物なりもの名の菓
をぐ吉なり

恵比須ヶ浦

○山浦よりあなるひへ石寺といる渓所なりて

むせうよ鯛を高ふ
○山所相州湯がこ歌のつぎさて別海老村る
寺なり宗旨を道とくを道り指宗のよし
○献立村名くの吸ことの足る吸口大根をあり
名おろし
○山浦より東よなるり大屋山の麓のよふ始なり
海岸なりくよ多ぬくよ仰て猿眼あり

乃用加川

○小涙川とふなり流れせるらくまて名よこるき
川也東の方よくんその山を岩風吹よておそろし

さ幽霊あり

○此川より本村の北より西なり甲斐文の信元
殘ひとりし時の軍ぞいけ所なるよし時天
十日のなりぞ見人物をもうし
○菊づけ獨頭弥名物又味噌づけもなるよし色い
ぢこざ〳〵絲ど頭をきるるをいふ
○せきもいせきうるおどいくる多し かさち
いがもも大きくしてさくづるるなく法ぞさ
おとくして四つよかごるへるし
○川下ふ中へ村なり矢面を関ふ結びと給ふ

横蔵の山嶽

○峯けうく高て綿ぐしの者そくさ又西の下北
海をそよ名まのうよりのうよりのを香炉峯
小そらよ
○此川之村之拾之西の花西なり寺号久米ちといふ
源正の西化の開祖也宗旨い浄土真宗ともいふ
源ふうよ
志ぞくるや峯川源となり
○てんつ村なぞ孤なふつぎ石地なるぞ出る
○ぞやま方村なぞ法ぞんでうる
○山下の名物菓子の多し 先輩の素袍さん

くもりこれハ今まで髭のゑんに因也
○ぬきとく小町ありて三條西の下へ入町をつゞき小
市川といふ流れありて浅ぐも祇園川也祇園
神をうつせの川といひ川ちやうんとこふといふ

師走峠

○上州のかすと川つゞき遠に流るせるしさ川也
むしゆへたりて裏白といふ草のかくをを水中に
投へしおとしふ
○川上に高人居なまきなり最古事節用あるを
きうりなれこれを塩引節用といふ

○見よ東れべてえてて爲をこ驕ふかりたへこふて
も見えとれを兎の義といふ
○此川に大なるありて松と祇園者合頭痛をやむ
○年忘乃里おのしろき所也予由来を尋るに
むかし智仁勇を兼たる孔明大敵をおそれ僅一人
籠城してやぐらにより琴をたんじ深く手ぐそ
ころはんのと敵におとんたろうを驚きうめ殺
なりてどびまいりるも也其例をもつて是れの
大敵を引受ざてめたるいふ大なるを殺ぐるのよ
○條え村に泉の下黒の古跡なり一向の碑に曰

こゝよ

あそ山でざこうてゑてゆうん

まるめる方いやれやちゆらん

○山里つきよ大まかりこ引ぎりこちのまゆり古石乃

方よ制れかり

その文よ

一外番ハ一外可番

○本根川村小二のかとこらかりこ孫五大ゆ祢角幸

十二月中旬より晦日を開帳下ヲ乃おりよ雑葉

を祢を松まゝ本かり社領もゑせいろふもをよう

宝物　陣巻ゑ拭　一勇

たき記　一筋

○太の方より碑を仮名にて是より尤りちんりち

○碑記銘柳の名示あり

折助ちんの石碑なり

さき柳や二筋さきて柳京

橋村

○古記年氏のさ苔大相ほのてうなのさ　改王妓女

なるひい治のせんざの和おまのあどの流を汲んて今寄

世ふ沼色さ名をおくりてやくんよひさ蔓秋冬

のとうちるく鶯の所也東の方より記山なり出り

ぬれば、こゑをこうび峠とゝの又西の方より指紙ぶ浦
柳橋の風景西にてよりの詠ことびて高ぶり
ゝる紙ぶ浦柳新芽ふのかれるまでとゝ古人の
名高也といふ作の世及ハ白毒の紙ゝ墨をまのざ
のこふひいなぶりこふあるでとゝゝとゝして紙屋さ
ぶる家より紙きたくきんげの華ねぶ藏ぶよさいの
るきゝゝ書ても焼いても冷ゝきぬ川ゝとく
てりきゝ淡失ぶゝの名物なり
○竟茂ハ出ぶけよかちくゝ山なり西ゝ下ゝよ
ぶけゝの出る

○上田村鼻紙の安重ゝ有ゝ例年なゝふゝてぶちの
なゝるゝゝハい氣の華のぶゝ
○笛吉原坂ぶなゝれぶもだまして安さ坂也
酒中紙なゝひい大小の名物なり焼鮒を稲ぶゝ
てぶいゝきの名物けいゝくふゝを高くいゝゝなり
○晴ゝる日ハ姉ゝびゝい三味せんの第報山ぶゝる
○牛滝の秋芙風景ゝなりてゝ名を脇
られ寺とゝふいやゝもあふゝもゝとゝぬゝふ法川
流ゝゝてんびん樣立ゝ人ぶゝの名物なり
○ゝる尾山ゝ名ゝゝれい法人の高ゝ西ゝり

緣紀行

年明之樂漸於字

名附

○紙子川

○時酒村

右ハ間の宿なり

○客のさせるをかりぐるぶしつけの古狐色をうつ

ちょうちんあんしゃんぬしい市右ゑつぐ堀なり市ハ

樹ゝるハなりゝ後根の木

地獄谷

○沙水の流れハきゝて去るも元の水よりなりぬ

それハさるすゑぐゝ事る客の勤ハたゞずして去る

もえのきゝふなりぬ鳴る月のめぐり後ゝなりて

水ようりゝろふ京名きくい西瀉の秋の夜迫くい

時ハ次麓の浦ゝ里もゆけ方もゆけと夜

人帰ゞせり蛾也芋松茸汁鮫ハ三人詰め句

漆一斤上人の古紙一ツの碑なり

其句ふ

おやしきさゝ地獄の町のゝ痛汁

○きゝふちゝんゝ大きゝくゝ額なりて

うんぞん大王の怒ふるさんとゝつとおそれ給ふ
○海龍の逆ひのせうとうせんぞうせん雷のごゝ
○えんきの角ゆけりしそふい虎の革のふんぞ
るで縅ぢりめんの大ゑんおそろし
○罪人をえらびて責たる掛へりしが為の四人と
かくもふきんさんの四人さで四べの客人為ふるうそぶと
思ひつゞけて寐ぬ云ふ四人ぞ云ゝやゆやわらとふ
○蒲団ハ赤三紅の血の池換料とうきの山ゝ為る
○うあつきのきゆ浄破就のびゝどろかぞふ
うゝされて其罪をさんげさ

○番所を代るとの罪人は東ふ義入夜とうゝ
知ぐりよ茂居ゝ知めふふ云のふりより
○吟ふる叫ハずかさたのゝを用のたるるり
○半所ゐる所の用る一押当て徑俗を古備のせ先ゝ

羽織ゝ山樣

○山而茨ゝる濡ゝ一八丈よ仰ゝる濡也日本掛ゝり
所の方山のゝふ小たるゝ也順ゝ体せんの名人なきを
○名物朱泉絃又数素附
○紋所

ゝ新深出ゝ名物ゝり

○夫婦でこぜんをいとなむ世里の云ふなり
○紙袋をとんぬりといふて茶やき者のあれども
夜ねせよなとゝんだるうて女郎をかうぶるうち
ゆゑ大ゐんち前の大とぶ一ぱいするより
女郎衆かうぶ花迄ことゝの者共紙
○所ぞ者のうちの峠和織の細よつまげさ宅
うさこさ山のり
○みそ売たるひい富の売札をとり出させるのそふ
ゞよとちひてよし

毛古路橋

○此橋むて縁一ぱいまて濱さ二日十八日小波淺あびて
○日本橋より小ようたるそ所の沢ゑて縁ひこ角の色
くびれる酒よ酒をうり〳〵さうり〳〵おきつの紀軍
茶屋高のたて幕串のわこをう見いどこたく
うひ一古銭場のり
○塗下駄前だきとたんざ〳〵の名物なり
○此所酒りゐ一者よ和るの変へきけどるこり
ゆり〳〵拝ふるのゐし
○此所よ拝びとぞせべついまきりぐんと出うける
○かぞやさ冠去のりうるの古とるり

高乃町

○ちよが市といふ所にて毎月廿日と十の芋名物

○日本橋より五法よりかと十の芋名物

○山西より三先の古物なり

○屋根瓦の紙ひ火燒の中でくるくるとのべ、紙ばかりきて板ばしめ出すと酒を出すなり泉州の山雲母より紙の山

○小紺の名物花やきさるぬ藤おぐり山川の泉小

○船頃切りと忘れ戸(略)乳のきさるぬ船頃地

名をとゝへたさるこ古ものとゝ

奥山村

○山西去業瓜ゞどぜう小化しゝ百とゝ徳利の名物

○清代糸の女中奥山よりてでゝの狐文小だるされる

のゝんゝ女るゝの出合小ゝるで出せゝ百るゝも

ゝのゝんゝまりつゝいめゝえと大ゝぜゝ川小ゝのうゝちの

女房ゝさゝよゝゝ大ゝさゝ小ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

○水業屋ゝりその名を世彩とゝのゝ高ゝ猪の行ゝ

ゝゝゝで体ゝ山西の風義ゝ

○南の方小数珠屋ゝりゝ永名梅川や

○くろうど新文高柳ごしの文の如くふうれ
よしのたけからうけきどもあつて元来為うん
ぐよおれかぐの文るはいとうぬがれの出
かぐいよよしのかるる縁でなるまとこ川さう
梅よ向川てさくさふ方女のうあおよふ
ぬ橋とも足ぶてうこうあり
○白石屋文八ぐ市中号るの地蔵なり者ふ手紙こで
山号ふ弱山
○蔵蔵ふのひるたの家奥山をぶつきしよりを
さくぶてかくりたるとよこたる

どぶ川えんぐ赤ぐかふ岩ひ蔵蔵ふ
○中蔵きう家ーはまりはよりぶどぶ蔵かうこうる
○裏の方ふ板まなる古洗よ裏の名のまでけん
毛ともるるふ
浮世ふ日はは堂新建ようを洗橋系
日毎よはは所よ浩かの板まよ雲り繁とむ
きりたるよりをひりて使ふ

酒ふ辞さ市

○新ぐだんを貴を新あぐはるよの菜碗湯のいき
ひよ新ぐのぐちのさんとの名物

○女郎にみかぎられたる草花織草たび出る

○紙などへ入る名物ぎれも古切に似たれバ之を名とて行燈町と云

○昔なんとか此所まで一切になれたる所なりたる子

あるとあんとなるを泥むれといへる奥瀧明をいふかく

亙魔に多んなりて名木を多く

○紀州山椽柑寺大地なり霜月八日開山記御象印

○かつきともびんがうあり

○按摩が稼ん上人足力の古跡忠末与三年十二羽

三川が一の井

忠末よ此水古渋古借武へ借令横泉なのどよ

ことちひてより麴町の井とハ雲泥の違也

會関

○此関は及びさるより織安き関也石見壺州千家

あどく三角にまさりの名をなる紀関あり

○かるちん柄枚法色を画切きべ帳燒よあるを

蔵くいよ濃茶をふそへ中川ざとよ

○坂のをりにせるらくたんけの気あり

○ぬれてよ林なりて総志末出るかゑび生ずとふ

○何より篤の山見ゆる

○吸ものの紫のめくさ味噌

○沼合の辻中立ち浦方福ましく観寺なり
○門附菓子を給ぶとなり此ものの宝物也
○此峯より時ならず極なりその西の井戸茅蜩より
爰ゝ大きなる鍋瓶とるむし釜をせめ
なる原元なりとなり

徳平村

○此村つぎより極安所なり六八文字のなり歩ゝなる
なるやうなり
○其外古法へなれども只赤切泳七ゞ塚なりこを
所より奥列伝毒なり

○門より東はなるなり高宵茶師農なり寺院福
うさんなるなり宝物は二本の矢なるより
弾は同此矢奥の黄の沢用ひるより
こを名なれ矢これ矢こなり

おぢのゞ雨

○庵清の面せうくの雨は法人の去る西おぢのゞ
面なる紙系なり
○ゑ仏ゞ彫ゞ中門美味なり
○さけ右高京清の沢系せんぎの為なりこをせい
茶のせ西よりは右の方よりさけ山うんゆ

○[illegible]の清水[illegible]の隙あり
○日蓮上人の旧跡[illegible]孫一本巳帝[illegible]今よみ
とゝひ佛ふ

桂の岩山

○紅日乃[illegible]の京[illegible]風景よし
○大[illegible]の冬なる物
○ふ[illegible]て紅葉なり[illegible]あ[illegible]流る
青樓よりでゝ[illegible]のまんだらの
○折く乗[illegible]北口村[illegible]の安し

○漢[illegible]所なり投なるいえのまねき名物

盤鐘

○[illegible]足金山龍王院境内にて毎年巳月挂馬の
祈なり
○漢場[illegible]人なきる出るだ[illegible]のかんぐ[illegible]
小[illegible]紅でゆる出る
○八月[illegible]月殺[illegible]おどかる二月三の
事牧の[illegible]つ[illegible]濃あり
○[illegible]月八[illegible]丁大根[illegible]名物

能勢寺

○歳旦町のつぎたの方かんるこさだを紙うゆる
○点へれう池附合の涙ん由る風景より
○西の方より廿五てんかりけり
○書ぬきの帛古跡
別高中富のさいを行ふ
○素奥和尚著して法法なる
○紙城おぐ手紀ぐ塚なりう素絹の人あぐふ神をぬ
○さてく雪之のよいのか弓死を出事とらふ

慈房様

○吉野より東ふなるり紺屋山なり弘法大師の

○市の奇よ
つきされて濡やきつぐん通人の
紺屋の奥の薑親乃水
○阿波の鳴戸より深出せるうれなき
○えの波しの根戸より出るをきやうとらふ
○えくなつめるを小紋形天文ぐとらふかもて
○うんさ紀小紋なる
紋所九の内よこんてんま
○晴る日ハ巻山小紋うゆる
○板せん形かるけ松の中来なり
○せくんのたし せくんの小紋なまるなる

○仲人へ氣を通し小級の上下でえらく
○面やうの色と隆かるる矢さきの小級とれいたいたん
がうの軍やぶれし時より深出せるなり

まやき町

○くさやのひりんやで茶さぢり網名物
○のりけよそりの和宮名物
○東の方よりむかうる山雲を常とする風京より
○さのふる向潟へ行茶屋迄なりし古級なり
松風村名ゲ鍋なりそのなりし有といの
○中ふだひとびいしやを出こ稱ぢし大こ恵名物

ひろ口村ろ場寺市茶市西の宝で百万石
○女郎ゲ分よりでき稱くいどりうこそ尾茶や
ありれべこそさいおなりそひい橋おう梅もさるせる
女郎い祇くしもひ新村孫新村の次の宮地

赤蔵山

○小ぜふくさもこ河ぜこケ所のなるドたつまやつも
角力のいえんよりう赤蔵山の四文銭之年小
だてふとり稱ひきを負してごさんあれて大引
さきあつき矢先稱いもそれずなやまるべきど
さのるのるのあれべくらりト（釈迦さ負よ入口

のさいごぞなりされる物ぞうなり

○京七条東洞院にあるまの大仏を

移しし

○まきぎりとふ伊勢城の石垣なり

欲るを

義屋しも見さを屋ともなる

○西宮礼所一ぞんなんで天山海ふく寺仏蔵四文殊

一本にて寺を建られる所あり也てなき地あり

○宿ちぐれは勝やなりかるのあやぢとふ

○山西四文殊の泥打寺無数をつき測也とのこの話

有り旧跡なり山川の川のつきて坂東ちくの川とも

○和歌浦の方ぞ名ぐ所なり幕り嵯峨ふきとかくつぐをする

○山西は始なりてそなたなる方なり東の方は大きなる

臺見ゆる風まなりたてられてつぶきる

○山西寺の後ろの名物吸ひ口

○なる人乃をとへいつ[illegible]ふき由来を尋るよ

たいやのつ乃なさんの古跡なり

ふよ　面と出てつ〳〵あとふ見ひ〳〵よ

○　さりとて又そ[illegible]ぞの用とそ

○ひがしの方より西うんげん寺の前の古墳なり
二丁大塚の名あり
○此里安房をおうなといひ又いうなともいふ

穀入村

○きぬ橋箱田あと名地一里餘より僕とろ上野
海道をへだてのこり百姓多し
○芝原へさつり小屋を渡さうしてもあり沒去の
○名をとゝい山下中巻切
○南の方よりやげ村なり屋敷せんへい
○家敷坂のつゞきより西なりその今かうきり田なりその

次より小ゐどゝいの川西なり猶小なりうれ新い
京家のよし
○小淵で又百姓うんいうんざやまよりあり
橋見あり
○ぢの川ちどもりふだりいゆざりこぶしの稲川
とふもあくむの俗の向雲より新のりなりこ
の方あどくもり

日町の里

○大勢なりまりてゆざやる所あり
○社橋の新沢いうゝさうでもざゝさゞ廣れば

○こぶの出来るなぶびいるゝ名をうべ平市とふ
○今むとりの元祖いぐの市ふ如うゝよびよせ
さるるゝ菓子人組ゝ古人前狂
○ふ妻接沢の社なり神祇ところゝび
詳よ曰不動のかゝ志ぢうとも天狗の
かゞ淵もいふ
○別姫り小橋が四郎ゝいどろがうのふゝ
のゞなる
○新まで起さて居るとゝ如さびの中なさ
がうもなるようゝとれぶいかんの菓ゝり

○町ぢゞまよ夜中のやさえゝなり
由来曰
世ゝ年中の事のようたいろふ
京後寺の住僧やさめ地獄落る
罪人をたすけゝ所とふ

雲洋寺なこ巻終

飼物日待草　毛氏なる乃氏と八卦小なるをふくたるものや

通俗文撰　風俗文せんの意味を加へて世間の姿を出たるものなり

通暮之石文　通して暮らす意味を書たるや

右追〻出板仕れ乃氏求清度うそ下い